

〈生活科〉 1年

現在の分析

〈生活への関心・意欲・態度〉

- ・アサガオの水やりを欠かさずに続け、生長にともない変化していく様子を楽しみにしながら、親しみをもって世話をする姿が見られた。
- ・2年生とのすてき班活動では、上級生との交流を楽しみにしている児童が多い。

〈活動や体験についての思考・表現・技能〉

- ・ほとんどの児童が活動を通して、感じたことや考えたことを絵や文章で表現しようとしていた。
- ・すてき班活動では、多くの児童が約束を守り、友達や2年生と仲良く関わろうとしていた。
- ・活動の反省をもとに、改善をしようとする児童の姿が見られた。
- ・気持ちのよい挨拶や言葉遣い、学校生活・遊びのルールやマナーを守るなど、生活上必要な習慣を身に付けられない児童の姿が見受けられたが、正しい行動をしている友達を見ながら、少しずつ改善してきている。

〈身近な環境や自分についての気付き〉

- ・先生、友達、上級生など学校の人々に、強い関心をもつ児童が多い。
- ・自然の中で遊んだ経験については、個人差が大きい。児童も、生活科の学習や校外生活などで季節の変化を感じ取っている。

重点課題

〈生活への関心・意欲・態度〉

- ・身近な人々や自然・社会とのかかわりに関心をもたせ、主体的に活動できるようにさせることが課題である。

〈活動や体験についての思考・表現・技能〉

- ・「自然を大切にしよう」「自分たちの遊びや生活を工夫しよう」など、体験したことから自分自身や生活に役立てるようにすることが課題である。
- ・植物や生き物を詳しく観察する力やそれを表現する力をつけていくことが課題である。
- ・人や社会及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して、どのように取り組んでいけばいいのか児童一人一人に考えさせ、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせることが課題である。

〈身近な環境や自分についての気付き〉

- ・身近な人々や自然に関する気付きをもつこと、それらを通して自分自身の成長に気付いたり自分の可能性に気付いたりし、生活することへの意欲や自信をもたせることが課題である。

授業改善策

〈生活への関心・意欲・態度〉

- ・身近な人々と関わる活動を通して、親しみや知的的好奇心・探求心を覚え、驚いたり喜んだりできる活動を繰り返し取り入れる。
- ・草花や樹木、生き物と直接触れ合い、身近な自然に目を向ける活動を取り入れる。
- ・昔遊びなど、友達と競い合ったり、教え合い、助け合ったりしてかかわり合いながら進める活動を取り入れる。
- ・一人一人の思いや願いが生かせるよう、児童が感じたことを取り上げながら授業展開をしていく。

〈活動や体験についての思考・表現・技能〉

- ・児童の実態に即した活動を実現し、学習対象にじっくりかかわることができるようにする。
- ・多くの手順を必要としたり、一つ一つの指示がなければできないような活動をしたりすることを避け、主体的な活動、思考、表現ができるようにする。
- ・試行錯誤を繰り返す活動を設定し、活動の時間を確保することで、注意深く観察したり、考えたり、意見を交流したりすることができるようにしていく。
- ・児童の気付きを大切に、個々の気付きを全体で交流することで、活動を深めたり、広げたりする。

〈身近な環境や自分についての気付き〉

- ・活動したことや体験したことを絵や文章(言葉)で振り返らせ、気付きを明確にさせる。
- ・表現させる際、これまでの体験とつなげた表現、感覚を生かせるような働きかけや言葉かけを工夫する。
- ・体験したことからの気付きを伝え合う場を設定し、お互いの気付きを知ることで、個々の気付きの質を高めていくようにする。